

(任)日本地質学会 2009 年度第 5 回理事会議事録

2009 年 10 月 16 日

日本地質学会

会長 宮下純夫

期 日：2009 年 10 月 3 日（土）13:00～15:00

場 所：地質学会事務所

出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事 藤本副常務理事 石渡 岩森(早退)  
上砂 倉本 齋藤 坂口 藤林 向山 各理事，橋辺（事務局）

欠席者：久田 矢島（委任なし）井龍 小嶋

\* 成立員数（12/17）に対し，出席者 13 名，委任状 2 名，欠席者 2 名で，理事会は成立。

\* 前回議事録の承認

○報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）

総務委員会（委員長-上砂）

・東京大学海洋研究所より，平成 22 年度の研究船淡青丸・白鳳丸の共同利用公募通知→締切 9/18  
のため geo-flash に掲載

・学術会議より，平成 24 年度に開催される国際会議の共同主催募集要項，応募期間は 10/1-11/30

・富山県ひとづくり財団より，平成 22 年度「とやま賞」の募集要項→締切 11/24，geo-flash および News 誌 10 月号に掲載予定．富山大学関係者にも連絡 11 月理事会で検討

・広島大学地球システム学専攻教授(2 名)公募→締切 11/6，geo-flash および News 誌 9 月号に掲載済．

会員関係（担当理事 向山）

1) 入会者 10 名（正 4，正院割 6）

正会員：荻野慎太郎，橋口昭彦，堀 高峰 平賀岳彦

正（院割）：中村真祐子，沼田直樹，赤井理一，田中真理子，小杉安由美，酒井北斗

2) 退会者 0 名

3) 逝去者 2 名（正 2）

山寄謙一（9 月 3 日），青木 清（8 月 30 日）

4) 9 月末日会員数

賛助 30，名誉 74，正 4219（うち院 211），準 31，合計 4354（前年同期比 -114）

5) 会員名簿の発行

12 月予定で準備中，賛助会員を中心に掲載広告募集．

11 月 10 日くらいまでに原稿

任意団体最後の名簿となるが、表紙の表記は一般社団法人との並列とし、規則類などは法人と任

意団体の両方を掲載

6) 賛助会員へ新年の挨拶ぐらゐのタイミングで、法人移行の挨拶状

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

- ・第1回学協会会長会議開催、会長出席予定 11月11日14:30-17:00 東大理学部
- 自然史学会連合(委員 齊木健一)
- ・総会が12月に開催される予定で、それまでに担当委員の継続有無について、連合の新代表候補者（現代表 西田治文氏：植物分類学会）の推薦要請があるとの報告が齊木委員からあった。委員については、これまでどおり齊木委員に継続依頼。

会計関係（担当理事 向山）

- ・W-B社より2010年のアイランドアーク Vol.19のオンライン購読の契約更新通知。購読料1441ドル（2009年は1359ドル）で、2口の利用で2882ドル。
- ・10月16日会計委員会開催予定
- ・日本複写権センターから平成19年度の使用料配分、24000円。

広報委員会(担当理事 倉本=情報特任・坂口)

- ・写真コンテストの審査委員会の設置、審査委員長は白尾元理会員に依頼し快諾された。委員長へ講評の原稿料+交通費（3万円程度）の支払を検討
- ・コンテストのポスターを作成し、周知の強化を図る。A2版カラー印刷(500枚まで) 5万円前後、配布送料は300か所程度なら5万円未満、両方で10万円程度の費用見積り。
- ・ニコン広報誌（ジオの世界へ）への協力（会長ほか）
- ・過去2年のWeb検索状況について 順調にアクセスが伸びている。

ニュース誌編集小委員会

- ・岡山大会で委員会を開催し、記事の充実を議論（大会の記事や就職関連記事など）

2. 学術研究部会（部会長・石渡）

行事委員会（担当理事・委員長 斎藤）

- ・岡山大会について

参加者数は、約850名、最終報告および決算はまだ出ていない。9/6、富山大会への引き継ぎ打ち合わせおよび行事委員会を開催。市民講演会の来場者は約140名とたいへん盛況であった。地質情報展の入場者は2000名超でこれまでの最高で大成功であった。来年度の地質の日の行事について

国際交流委員会（担当理事 石渡=国際特任理事）

- ・韓国地質学会年会（10/29-30，濟州島）への正式招待に応え会長が出席する。
- ・モンゴルとの交流協定案について：10月に宮下会長と石渡理事が出席して調印，地質学会から記念の楯を寄贈する
- ・交流先の学会員参加に向けた学会の国際化の必要性：参加申し込みや登録など情報を英語化する必要あり。アジアセッションのテーマ等については各2国間交流委員会等から国際特任理事に提案を集約することとした

### 3. 編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）

地質学雑誌編集委員会（委員長 久田 副委員長-小嶋，岩森=企画担当）

- ・今月の編集状況は以下の通りです（9月28日現在）
  - 115-9月号：特集号「プレート沈み込み帯と地震(世話人：廣野哲朗ほか)」(68ページ・校了)
  - 115-10月号：論説3 短報3 ノート1 (56ページ・校正中)
  - 2009年度投稿論文 総数57編 [論説29 (和文29)，総説10 (和文10) 短報15 (和文14 英文1)，ノート2 (和文2) 報告1 (和文1)] 口絵8 (英文4・和文4)
  - 投稿数昨年比 -46 査読中編 62
  - 受理済み26編 (うち通常号8 特集号18)
- ・特集号6件投稿中。うち「陥没カルデラI：構造とマグマ」(世話人 三浦大助ほか) が間もなく刊行予定
- ・115巻9月号より新編集規則の適用を開始した。
- ・Web of Science 登録申請を間もなく行う。それに伴い9月号からトムソン社に冊子送付開始。

Island arc 編集委員会(担当理事 井龍，事務局長 竹内圭史・角替敏昭)

- ・編集状況報告(10/2 現在) 順調に推移

企画出版委員会 (担当理事 藤林)

- ・9月5日，第1回企画出版委員会を開催。
- 今後の方針や企画等について検討。国立公園以外の企画もあるので，対象や目的に応じて3種類程度にまとめることを検討 (たんけんマップ，そのほかのマップ，一般リーフレットなど)
- ・地学読本 (委員長 原田憲一) の刊行は遅れていたが，11月には刊行見込み。定価2520円(税込)，1000部印刷 (予定)、なお，販売促進，普及のための講演会を考慮中。
- ・フィールドジオロジー入門は早期の完結を目指す。
- 出版委員会のマニフェストを法人に継承する (そのほかの出版委員会関係も)。

### 4. 普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）

- 法人移行に際して，アウトリーチも含めて事業内容の再確認を行う。

#### 地学教育委員会（委員長-中井均）

岡山大会時にシンポジウム，夜間小集会とランチョンを開催した。

#### 地層名委員会（委員長 天野）

・9月6日（岡山理科大学）において拡大委員会を開催。

・第四紀問題に関して早急に以下のことを行う。

1) 学術会議 IUGS 分科会(斎藤靖二委員長)に対し，地質学会として第四紀問題に関するシンポジウムの共催ならびに講演者の推薦を申し入れる(会長名で)。

2) 同分科会の検討 WG に対し地層名委員会としてメンバーの推薦を行う。

3) 会員等に対し，News 誌，Web，geo-flash 等に第四紀問題に関する概説を掲載する。

#### 5. 各委員会等

##### 支部長連絡会議（担当理事 高木）

・9月6日，岡山理科大学において全支部の参加を得て支部長会議を開催した。

法人としての支部のあり方，とくに会計と支部規則等について説明と意見交換を行った。県や地域レベルの情報について地質学会として広報してほしいという意見が出された。

→ 各支部の地域内にある地学会や団体のリストアップを依頼。News 誌に各地域の活動紹介のシリーズ化などを検討

・中部支部から、名古屋地学会と共催，愛知教育大学後援で，11月21日に普及行事「小中学生のための野外観察会」を開催（学会補助金承認済）するとの連絡があった。

##### ジオパーク支援委員会（委員長 天野）

・岡山大会のワークショップ報告

・ポスターを関係諸機関（博物館，ジオパーク推進機関および推進者など）に配布。

##### 法務委員会（担当理事・委員長 上砂）

・利益相反規則（利益相反申告書），個人情報保護に関する規則，除名規則の3規則案を修正作成した。

#### 6. IYPE 日本（佃副会長）

・IYPE と学術会議で終了イベントを行う。3月27-28日秋葉原

環境・資源・防災が3つのメインテーマで高校生程度をメインターゲットとする。地質学会として1時間程度のイベント実施の要請あり（出展代 10万円くらい）。内容については，今後検討

#### 7. NPO 地学オリンピック日本委員会（久田）

- ・第3回台湾大会の参加国は14カ国50名+3カ国のオブザーバー
- ・日本チーム（団長：上田誠也東大名誉教授）4名全員が銀メダルを獲得した。
- ・2010年第4回の開催国はインドネシア，国内選抜の募集開始 10/1-11/30

#### 8. 日本学術会議（佃副会長）

IYPE を総括して学術会議で報告書（6月ごろ）

#### ○審議事項

##### 1. 任意団体の解散：評議員会および総会開催のスケジュールについて

- ・解散と資産の引き継ぎについては，総会決議が必要、基本的に総会は例年のスケジュールで行う。
- ・4月最初の週に任意団体の評議員会+法人理事会（暫定：4月3日に科学技術館）。活動は新年度からすべて法人に移行するが，会計処理などもあるので，5月総会で解散。この場合に，任意団体の新年度会計はゼロとして解散に備えるだけの期間とする，

以上